

夢中になる課外活動推進のイメージ
(生徒の変容を見据えて)

右も左もわからない状態
・やってみたいことが明確と／漠然とある
・やってみたいことを見つけたい
・とりあえず入学した

【生徒の動き・考えの想定】
なすことによって学ぶ意義を理解した生徒は、教育課程内の活動だけでなく、部活動など、様々な課外での活動に一歩踏み出していく。

経験することで得られるものがあると知っている 1年生
・やってみたいことに挑戦している
・やってみたいことを具体的に見つけたい
・何かやってみたら面白いことがあるのかも・・

夢中になれる課外活動
自分の「やってみたいをやってみる」ことができるよう、多様な活動を用意する。また、やってみたいことを探す支援制度を整える。

<p>学校で計画された課外プログラム</p> <p>例 ・部活動 ・教育プログラム（近隣の小中学校と連携） ・防災プログラム（区役所・消防署・唐橋地域の自治会と連携）</p> <p>【運用】 ボランティアを担当する部署が業務として企画・立案・運営まで行う（企画の段階で経験者としての生徒に意見をもらうことなどを通して、改善をし続ける）</p>	<p>外部からの依頼も含めた短／長期的な取組</p> <p>例 ・高校生インターン ・グローバルシフトプログラム ・その他地域からの募集・依頼があった取組</p> <p>【運用】 ボランティアを担当する部署が業務として外部組織との窓口となる。生徒の募集・集約は行うが、当日までの準備や当日の運営は外部組織に任せる。</p>	<p>「やってみたい」を探す取組</p> <p>例 ・週に数回来校する地域協働コミュニティの方との相談（漠然とやってみたいことがあるが、学校で紹介されているものには惹かれない場合に、〇〇のようなことがしたい！と相談できる場）</p> <p>【運用】 地域協働コーディネーターの業務とし、地域協働コミュニティの方の中から、来校したうえで生徒（教員）との相談ができる方を募り、運用する。</p>
--	--	--

【生徒の動き・考えの想定】
他学年、地域の方など多様な方と一緒に、よりよい社会の実現を目指したプロジェクト型の取り組みの中で自分の興味関心を広げ、協働力や課題設定・解決能力、を獲得していく。

体験的な取組の意義を理解し、自分の「やってみたい」を追求し続ける生徒（学年問わず）
・自分の「やってみたい」に突き動かされ、様々な課外活動に参加したいと思っている
・自分の「やってみたい」をさらに追及できる進路を見つけ、その実現に向けてひたむきに努力している。

活動を支える学校の支援
生徒の主体的な取組を支援するため、公欠制度の弾力的な運用や、学校外の活動を開校高校の授業として認定する制度を整える。

New HORIZON Day の総括

□New HORIZON Day とは

放課後の時間を活用し、挑戦してみたいことに取り組めるプログラムである。今まで挑戦できなかったことや、部活動やその他の時間を理由にできていなかったことに挑戦してみる機会として設定する。そのほかには、一步を踏み出す機会ととらえたり、自分自身の興味関心を広げる機会として積極的に参画できる環境を提供する。

□今年度の実施時期

第1回	令和4年9月12日(月)	15時30分～17時00分
第2回	令和4年12月14日(水)	13時30分～15時00分
第3回	令和5年2月6日(月)	15時30分～17時00分

□実施内容および参加者人数

第1回 企画数5 参加者数62

第2回 企画数6 参加者数133

第3回 企画数3 参加者数32

合計 企画数14 参加者数227

第1回	
プログラミング無しでアプリ作り	3名
Futsal Festival in TONAN	10名
水風船で遊ぼう	7名
バレーボール	17名
バドミントン大会	25名
第2回	
塔南坂46～坂道オタクが全力で布教する会～	7名
オオサンショウウオ解剖演示特別授業	28名
2年生によるバスケットボール大会	21名
1年によるバスケットボール Game	7名
元バドミントン部とのバドミントン対決！！	24名
ダンスをしよう！見よう！（Tonan DANCE）	46名
第3回	
サッカーテニス	4名
VS Teachers	24名
エジプトの子どもたちに手作りカードを贈ろう	4名

□今年度の振り返り

今年度第1回目実施を7月中旬に設定していたが、本校でのコロナ感染が蔓延状況にあったため、延期をした。当初は参加者申込数が153人となっていたため、非常に関心度の高い取り組みとなっていた。

実際に開催した第1回目の日時は文化祭の翌週ということもあり、申込人数が伸びなかった原因と考えられる。第2回は参加者人数自体は非常に多く、取り組みも多彩なものがありまさにNHDのキャッチフレーズ「やってみたいをやってみる」姿がそれぞれの企画で感じ取ることができた。

中でも、塔南坂46の参加者数自体はそれほど多くはなかったが、参加している生徒はクイズ番組形式で参加することができ、自分たちの興味関心のある内容を仲間と取り組む姿は非常にワクワク感があり、楽しそうな雰囲気を受けた。

第1回、2回は教員主導で、参加者を募るポスター等の作成を行っていたが、第3回は企画者にポスター作成を依頼した。その結果、企画数は大幅に減少し3つとなった。またそれに伴ってかどうかは不明だが、参加者数も伸びなかった。

第1回、2回の内容のフィードバックを学校全体にしていなかったために、実施していた内容が不明であったり、実際の動きが見えないために、参加者ゾーンが回を追うごとに減少してしまった可能性もある。全体に働きかけをし、「気軽に企画でき、気軽に参加できる」しかしながら、自分たちの興味関心を広げるきっかけにつながっているという全体の取り組み目的につながるように再度企画を見直していく必要がある。

□来年度に向けて

今年度は、日程調整の段階で苦慮した背景があるため、来年度については年間行事予定に入れ込んだ状態で実施をする。

この取組を校内に閉じず、地域の教育力を発掘したり、活用したりすることを検討するとともに、生徒発信の企画を地域の小学生や中学生をはじめ、地域の方も参加できることを検討する。

□来年度の実施予定

	実施日	企画申込期間	参加者申込期間
第1回目	5月18日(木)	4月24日(月)～ 4月28日(金)	5月8日(月)～ 5月12日(金)
第2回目	6月21日(水)	6月6日(火)～ 6月8日(木)	6月13日(火)～ 6月16日(金)
第3回目	10月17日(火)	9月19日(火)～ 9月22日(金)	10月3日(火)～ 10月6日(金)
第4回目	12月15日(金)	11月27日(月)～ 12月1日(金)	12月4日(月)～ 12月6日(水)
第5回目	2月1日(木)	1月12日(金)～ 1月17日(水)	1月22日(月)～ 1月26日(金)

New HORIZON Day

皆さんの「やってみたい」を応援するプログラム
「New HORIZON Day」を開催します！！

■目的

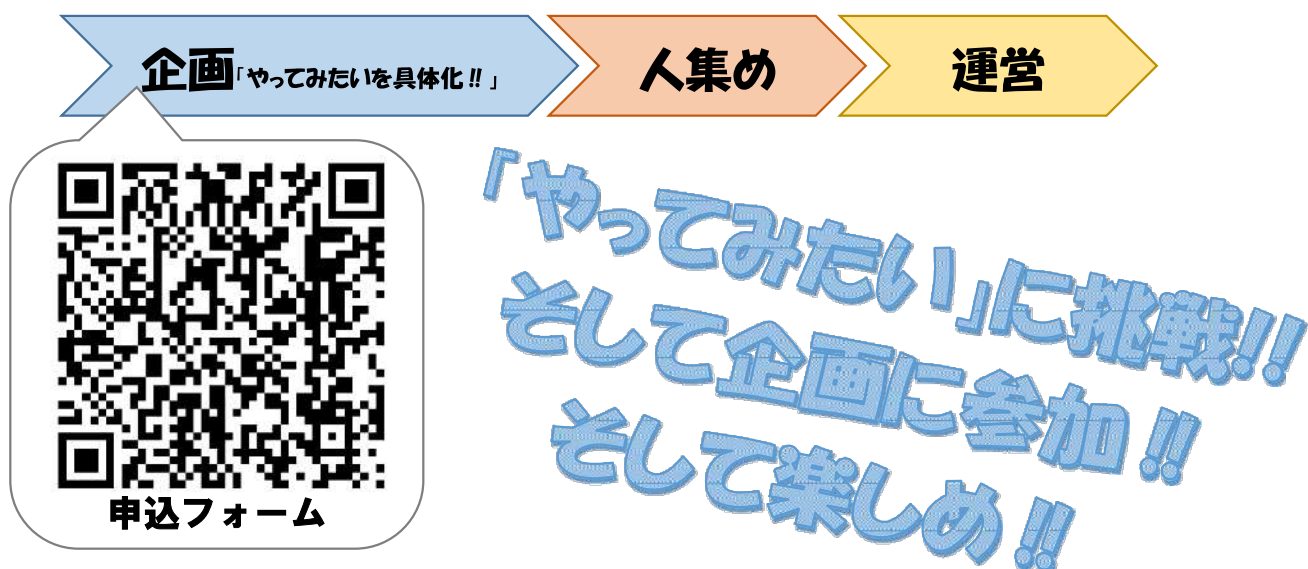
開建高校で実施する「New HORIZON Day」を先行実施し、塔南生の主体性を育む。そして、このプログラムを通して、「自ら学び、自ら考える」態度を養う。

■実施日時

9月12日(月)15:30～（最大1時間30分）

■企画募集期間

8月31日(水)～9月1日(木)



■各企画の参加申し込み期間

9月2日(金)～9月5日(月)17時00分

■企画者会議

9月6日(火)12時50分@AL1

■諸連絡

・実施日当日は2年み・特のみ7限目あり





塔南坂 46

～坂道オタクが全力で布教する会～

いくつかの班に分かれて坂道 46 グループ（乃木坂 46、櫻坂 46、日向坂 46）を応援する人がこれから推しを探したい人に向けて全力でプレゼンテーションをする企画！！

最初に時間を取って、プレゼンターには内容を考えてもらい、プレゼンを聞く人には班ごとにプレゼンを聞く前の時点での坂道 46 グループに対する印象などを話しあってもらいます。その後プレゼンをして、聞いた人には終了後、推しとなったか判定していただきます。そして最後に、プレゼンター同士での交流、聞いた人同士での交流の時間を設けて振り返りをします。

プレゼンターはグッズ（紛失防止のため 3 個まで）、surface やスマホを各自準備してもらいます！！

塔南にどれぐらい坂道 46 グループを応援してる人がいるかわからないのでプレゼンター 5 人、どれだけ坂道 46 グループを知らない人でもいいので 15 人ほど聞く人を募集！！

場所 AL2,3 予定



オオサンショウウオ

解剖演習特別授業

9月末に2年生文系の授業で行ったオオサンショウウオ解剖演習の additional class です。法的な規制が多い動物ですが、専門家としての立場を持つ担当教員が許可を得て実施します。

前半にオオサンショウウオの概説等の講義、その後実際に標本に触れてもらう時間を経て、最後に担当教員が解剖して見せます。時間があれば、骨格標本にするための解体作業までおこないます。

場所は生物室を考えていますが、希望者が多ければ AL23 等の広い部屋を、汚れ対策をした上で使わせてもらえないかと考えています。

学年問わず、また教職員の方でも、誰でも参加申し込み可としますが、希望者があまりにも多すぎる場合には制限がかかる可能性があること、ご了承いただきたいです。

なお、制限がかかる場合の参加優先順位は、

1. 2年生生理系および当該授業を欠席した2年生文系の生徒
2. 3年生
3. (来年以降チャンスがある)1年生および教職員
4. 授業に出席してすでに1度は見た2年生文系生徒および授業参観いただいた教職員、とさせていただきます。

場所 生物室予定



2年生が企画する 🏀 バスケットボール 🏀

参加者募集！！
場所：新体育館

A photograph of a brown basketball with black lines, resting on a light-colored wooden floor. The ball is positioned on the right side of the frame, casting a soft shadow to its right. The floor has a visible wood grain pattern.

参加者募集！！
場所：新体育館

1年生による バスケットボール Game

先生、バスケがしたいです・・・

TONAN Dance!!!



ダンスの発表をします！！

発表したい人、発表を見たい人を募集します！！

見るだけの人もQRコードを読み込んで、申込を！

ステージで発表したい人、グループは秋本までお知らせください！！

場所：旧体育館

バドミントン大会



コロナでできなかった文化祭企画を
もう一度。3年生が最後の思い出として、
みんなとまた一緒に打ち合いたいと思いま
す。ぜひ参加してください。

場所：旧体育館

KAIKEN プロジェクト（校章作成）の報告

—京都市立開建（塔南）高校×パナソニックデザイン京都の協創—

1 プロジェクト発足にあたって

歴史と伝統ある京都で、未来の学校の姿を「協創」する

開建高校では、「自らの成長とともに他者と協働しながら、より良い未来社会の創造に主体的に取り組む人物（＝協創者）」を、育てる生徒像としており、学校の中だけで学びを完結させず、京都全体を学びのフィールドとして、高校生が社会の多様な方々と対話・協働しながら、自分を成長させる教育活動に挑戦していく。

一方、パナソニックデザイン京都では、「今」の視点で製品のデザインをするのではなく、人を中心として未来方向に考えている開発者の想いを込めて、より良い「未来」を創造するデザインを提案されてきた。また、世界が注目する歴史・伝統と、若くて多様な感性によるイノベーションが共存する「京都」というまちに魅力を感じ、デザインを通して京都の魅力を発信されている。

歴史と伝統ある京都で、未来の教育を社会と協働して創造するという開建高校のコンセプトと、パナソニックデザイン京都の未来をデザインするという方向性が合致していることから、2022年3月に、「KAIKEN プロジェクト」を発足し、京都市立開建高校の前身である塔南高校の生徒たちと、パナソニックデザイン京都が、校章デザインを通して未来の学校の姿を「協創」していくこととなった。

2 プロジェクトの目的

高校生にとっての目的

- ① 自分たちの未来を描きカタチにしていく事に挑戦する
- ② 未来志向のデザインプロセスを体験し、様々なクリエイティブにチャレンジする
- ③ ワークショップなどを通して社会との協創・協働を体験し、社会と繋がる

パナソニックデザイン京都にとっての目的

- ① 京都の未来を一緒に考え、地域共生・活性化で社会貢献できる
- ② 京都の教育機関と連携し、未来のクリエイティブ人材の輩出を狙う
- ③ Z世代とのリアルな交流や、Z世代へのヒアリング・検証等の継続的な接点づくり

3 参加メンバー

- ◆塔南高校 有志生徒 21名(1年5名 2年3名 3年生11名 卒業生2名)
→事前アンケートや生徒同士の関係性等をふまえ、4グループに分けて活動をした。
 - ◆教員 2名(開設準備室・塔南高校より1名ずつ)
 - ◆パナソニックデザイン京都(7名)+外部デザイナー1名
- その他、開設準備室のメンバーや塔南高校の生徒が適宜見学・参加した。

4 実施した取り組みについて

本プロジェクトは、パナソニックのデザインプロセス「気づく」「考える」「つくる」「伝える」の4つのプロセスに則って進められた。パナソニックデザイン京都のオフィスにて行うワークショップ(WS)を軸としながら、そのワークショップ間の準備や調整として、ミニワークショップ(WS-mini)も適宜行った。また、校章デザインのコアになるコンセプトを未来志向で考える宿題にも取り組んだ。以下は、各種取組の概要である。

実施日	プロセス (workshop)	内容
3月31日	キックオフ	自己紹介・拠点紹介・今後校章についてどのように調査を進めていくかグループごとにディスカッションし、方向性を決めた。
4月19日	気づく(WS#1)	校章や開建高校についてリサーチをして、デザインの切り口を見つけた。また、リサーチ結果の共有やディスカッションも行った。
4月27日	気づく(WS-mini)	開建高校の開設準備を行っている準備室員の先生・行政の方と交流座談会を行い、開建高校について気になっていることや知りたい事等をやり取りして、開建高校への理解を深めた。
5月GW前後	考える(宿題)	開建高校に通い卒業して大人になった自分を想像して、開建高校での日々を踏まえた未来日記を書いた。
5月19日	考える(WS-mini)	グループの日記を共有し、共通する考え方やコンセプトなどを整理しながら、開建高校らしさを考えた。
5月27日	考える(WS#2)	整理したコンセプトを基にししながら、開建高校を表すのにふさわしいモチーフを考えた。付箋に書き出すとともに、印象のチャートに振り分け、整理をした。
6月16日	つくる(WS-mini)	出てきたモチーフをデザインに起こしてもらい出来上がった複数の案を精査し、2案に絞って自分たちが考えたコンセプトが伝わるか、開設準備室員や塔南生にインタビュー調査を行った。
6月24日	つくる(WS#3)	インタビュー調査の結果からデザインを再調整し、自分たちが込めたい想い(コンセプト)と照らし合わせながら、最終的な1案を決定した。
7月15日	伝える(WS#4)	決定した案がどのようなプロセスで出来上がったのか、どのような想いを込めたのかなどを含めて、各グループ10分間のプレゼンテーションを行った。

<オンライン活動>

対面で集まる機会が限られている為、オンラインの作業ツール(Miro)を使ってワークショップ間のフォローアップを行った。ワークショップで行った内容やミーティングの内容等を共有し、それぞれのグループの進捗状況もお互いに確認することで相互交流を図った。

<定例ミーティング>

活動期間中は、各グループのリーダーとパナソニックデザイン京都の担当者および担当教員がオンライン会議を週1回行った。この定例ミーティングでは、各グループの進捗状況や困りの共有、ワークショップの振り返りや準備など、その時期に合わせた課題について意見を交流し、プロジェクトを進行するにあたっての調整・共有の場となった。

5 参加した生徒の取組や気づき・変容について

プロジェクト開始時は、それぞれの興味関心を持つ生徒が、プロジェクトの趣旨のもと集まり、普段では経験できない貴重な体験ができる事を期待しているようだった。特に、プロの大人たちとの協働を通して本物に触れて少しでも多くを学べるという点を魅力として感じていた生徒が多かった。

ワークショップを経るごとに、グループ内での緊張感も解けていき、より自分の想いを伝え合えるようになっていった。細部までこだわるなど、前のめりになって取り組む生徒が増えていった。各グループにパナソニックの方がファシリテーターとして入っていただき、議論の整理や別の視点を入れるなど、ワークショップをうまく進めることに注力いただけたことにより、生徒が夢中になって考え、手を動かしてアイデアを出すことができた。

プロジェクト全体を通して、学んだ視点から日常を見つめなおしている生徒や、自分自身の可能性への気づきを得た生徒、また悔しい思いを持ちながらも次へのステップを見据える生徒など、やってみたからこそ得られた経験を大切に、今後につなげていきたいという前向きな姿勢もみられた。

以下、各段階での生徒のコメントや気づき

【プロジェクト開始時】

<主な参加動機>

- ・滅多にない貴重な経験になるし、面白そうだから
- ・新しい学校に少しでも関わってみたいから
- ・デザインに興味があり、プロの企業と協働できることが魅力的だったから

<プロジェクトに対して期待していること>

- ・自分には思いつかないような発想や考え方に影響を与えてくれる
- ・プロのデザイナーさんの仕事を見られる・本物を体験できる
- ・様々な人との交流・協働

【プロジェクト中盤】

プロセス	生徒の気づき(聞き取り・Miro のメモより)
気づく	校章とはどのようなものか、何を表しているのかを考えられた。また、自分たちの高校の良さや特徴に気づけた。今まで知らなかった開建高校の特徴が分かった。
考える	開建高校に通った後の未来の自分を想像して日記を書くのは難しかったが、楽しかった。コンセプトを形に変えていくところで、何度も書き直してアイデアを出し合いながらデザインを考えられた。
つくる	インタビューをしてみて、他の人から見たら校章案の解釈の仕方が異なっていたり、自分たちが伝えなかったメッセージが伝わっていなかったりと、作っている側だけでは気づけないことがたくさんあった。
伝える	資料の準備をしている段階で、自分たちが本当にたくさんのかたちをやってきたなど改めて感じた。また、プレゼンテーションはとても緊張したが、自分たちの考えをたくさんの人たちに伝えることができた。

【プロジェクト終了時】

- ・日常で見かけるマーカー一つ一つにたくさん時間と人が関わり、またその人たちの想いが詰まっている事を意識するようになった
- ・自分の伝えたいことを作品で伝える事の難しさと面白さに気づけた
- ・想いを形に起こし、残していくという事の大変さや責任を感じた
- ・今後も自分の意見とは違う意見ややり方を取り入れてより良いものを創ることをやっていきたい
- ・自分たちにはこんなこともできるんだという新しい発見をし、可能性を広げてもらえた
- ・このプロジェクトに参加できたことを誇りに思い、今後の学校生活に活かしていきたい。
- ・参加できなかったWSがあったので悔しい思いもあるが、自分の苦手な気づけたので、色々と場数を踏みたい。

6 プロジェクトの成果と課題

<成果>

○生徒自身の将来の展望や興味関心の増進

このプロジェクトを通して、生徒たちは普通の学校の中での授業や各種取組では得られないような経験や学びを得られたと実感しているようだった。

デザインに興味があってこのプロジェクトに参加した生徒は、自分の作品をつくる際に、どんな思いを込めるか・見た人はどう受け止めるのかを意識するようになったと言い、さらにデザインよりもコミュニケーションの大切さを実感していた。

また、デザインという答えのないものを導き出す上で、いろいろな意見をまとめて落としどころを見つけていくアプローチなどについて学べたという教育みらい科の生徒は、パナソニックの方々の生徒と関わる姿勢が、将来教員になった際にこう振舞いたいと探していた姿であり、今後の参考にしたいと言っていた。生徒に対して「付かず離れず」の姿勢で、様々な活動に伴走していたことが、生徒にとってのロールモデルとなったようだ。

このように、実社会で活躍する大人と対話・協働しながら協創していくことで、生徒たちは学校内だけでは得られないような様々な見方・考え方を、実際の経験を通して得ることができた。

関わった企業の方の考え方や取り組む姿勢についても、生徒のキャリア意識の醸成に影響を与えていた。将来自分はどうのような未来を描きたいのか、自分には何ができるかなど、長期的な視野から自分のキャリアを考える一助となった。

<課題>

このようなプロジェクトを行っていくにあたり、すべき点を以下に挙げる。

- ・企業と生徒の双方が活動できる時間の調整
 - 企業の方が活動できる時間帯と、生徒の授業や学校行事等の都合を合わせる調整が必要
 - 定期的なミーティングを活用しながら、適宜プロジェクトの軌道修正を図れるとより良い
- ・プロジェクト運営を担当する部署等の設定や関係各所との連携
 - 安定的にプロジェクトが運営できるようになるまでは、窓口になる担当教員が必要
 - 関係性が構築できてきたら、生徒が主となって企業とやり取りしていく
 - 商標登録等専門的な手続きが必要な場合には、関連部署との連携が必要
- ・参加する生徒の取組に対する熱意の差や参加頻度の差
 - 課外活動のため、部活動をはじめ他の活動や取組の活動時間と重なることがある
 - どのぐらいの温度感で活動に取り組むかは生徒による
 - グループ内でしっかり連携できるような関係を築かせる
- ・生徒自らが行動を起こし、企業や他のメンバーと積極的に繋がりに行く事
 - オンラインツールも含め、いつでも誰とでもやり取りができる環境は準備した
 - それらを活用し、自分たちでプロジェクトを進めていけるような駆動力の育成が必要
 - アイスブレイクやチームビルドなど、関係構築ができる様な取り組みを適宜入れていく
- ・開建生と一緒にプロジェクトを実施したいと思い、協創してくれる企業との関係構築
 - 開建高校の特徴や魅力を積極的に発信する
 - 塔南高校の事業に関わる企業等の集約と、今後取り組みを発展できるかを模索する
 - コーディネーター機能を有する機関に相談し、興味を持ってくれる企業を紹介してもらう

本プロジェクトは開建高校の取組の先行事例としても位置付けて実施をした。

生徒の成長に繋がり、教育効果も高いこのような外部連携が有効であることから、開建高校でもこのようなプロジェクトを実施する方向性は見えたが、円滑な実施に必要な運営体制の構築が必要である。また、生徒が自分たちでプロジェクトを進められるよう、様々なスキルやマインドを身につけられる様な仕掛けも必要である。

プロジェクトふりかえり (参加生徒)

何も無い0から1をつくることの難しさや、何気ない日常に紛れ込んだ一つ一つのモノはたくさんの人の思いや努力が込められているのだと気づかせられました。世界は多種多様な思想、文化を持つ人々に溢れています。自分の思いを表現しそれを伝えることの難しさ。その中でも意見、考えの違う人たちが、お互いの良いところに気づき、取り入れ、より良いものが生まれる瞬間に、新しい価値も生まれる。今回のプロジェクトを通して、開建高校を、たくさんの生徒や教員、地域の人との関わりの中で、より良い未来を創造する場にしたいと思いました。

「ソウゾウノート」に掲載

パナソニックの公式 note 「ソウゾウノート」の連載「Story of Future Craft」に、本プロジェクトのレポートやインタビュー記事が掲載されています。



KAIKEN PROJECT

開建高等学校 校章プロジェクト

令和5(2023)年2月発行
発行：京都市立開建高等学校開設準備室



京都市立
開建高等学校
TEL:075-681-0701

KAIKEN PROJECT

塔南生が開建高校の校章を創る



開建高等学校 校章

今まさに大空へ向けて飛び立とうとする姿は、多彩な光があふれる無限の未来に悠々と自分らしく羽ばたいていく力強さと、自己実現への意欲の芽吹きを表しています。

自らの個性を発揮し、様々な人々との出会いを大切に、対話と協働を通して、未来を切り拓いてほしいという願いを込めています。



▶ 概要

歴史と伝統ある京都で、社会と協働して未来の教育を創造するコンセプトを掲げている開建高校と、人間中心・未来起点でのづくりを進めるパナソニックデザインが協働し、未来の学校の姿を開建高校の「校章」へと落とし込む、学校×社会の未来協創プロジェクトです。

▶ 経緯

開建高校では、「自らの成長とともに他者と協働しながら、より良い未来社会の創造に主体的に取り組む人物（＝協創者）」を、育てる生徒像としており、学校の中だけで学びを完結させず、京都全体を学びのフィールドとして、高校生が社会の多様な方々と対話・協働しながら、自分を成長させる教育活動に挑戦していきます。

パナソニックデザインは、「今」の視点で製品のデザインをするのではなく、

人を中心として未来方向に考えている開創者の想いを込めて、より良い「未来」を創造するデザインを提案されてきました。

本校の校章をデザインしていただけないか対話を進めていくなかで、パナソニックデザインの「地域へ何か貢献をしたい」との想いと、本校の教育理念・社会との「協創」に共感いただいたことから、パナソニックデザインの皆さまと開建高校の前身の塔南高校の生徒が協創する「KAIKEN プロジェクト」が発足しました。

▶ フロー



キックオフ



WS① リサーチ、共有、ディスカッション

1回目のワークショップは、塔南高校の良さや、校章とはどのようなものか、また開建高校の特長等について、グループで意見を出し合いました。



意見交流会

塔南高校生と開建高校開設準備室の教員との意見交流会を行いました。開建高校の目指す理念や、開建という言葉の由来、開建高校の特色ある教育活動をまとめました。



未来日記

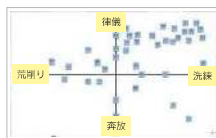
開建高校のイメージをつかむために、開建高校で過ごした未来の自分になりきり、「未来の私」や「未来の自分のその日の日記」「未来に役立った開建高校での経験」「未来の開建高校生に伝えたいこと」を、一人一人書きました。

「開建らしさ」の抽出

未来日記を共有し、未来や開建高校への自分たちのイメージや、見えてきた「開建らしさ」を整理しました。

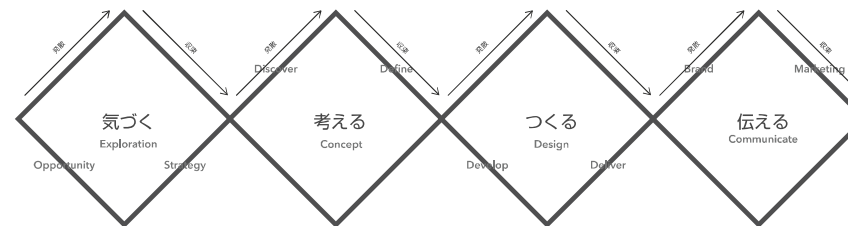
WS② モチーフの書き出しと整理

グループで整理した「開建高校らしさ」を表すモチーフやイメージのアイデアを付箋に書き出しました。アイデアを2軸で分類したチャートの上においていき、「開建らしさ」との整合性を確認し、グループごとのモチーフの整理結果を発表しました。



▶ デザインプロセス

パナソニックデザインのデザインプロセス、「4つの発散・収束を繰り返しモノゴトをカタチに落としこんでいく丁寧な進め方」をベースとしました。



インタビューによる検証

塔南高校の先生や、生徒たちに様々な意見をもらい、客観的な目線から検証しました。



WS④ 発表会

最終案をみんなに伝えられるように、スライド作成やリハーサルを経て、発表会では今までの想いを込めて伝えました。



WS⑤ デザイン案の絞り込み

各グループ、2案をデザイナーにグラフィック化していただき、コンセプトをもとに色やディテールの調整を行い、1案に絞り込みました。



KAIKEN プロジェクト 校歌部門

概要：

約3カ月の間、ワークショップや議論を複数回重ねながら、開建高校校歌の歌詞の完成を目指し活動した。

生徒と教職員で作成した歌詞の素案を歌人の方に補作いただき、また作曲家の方に曲をつけていただき、開建高校の校歌として完成した。

メンバー：塔南高校在校生（2019～2021年度生）11名、教職員4名

活動内容：

ワークショップ①：開建高校のイメージ共有と、言葉探し

開建高校の教育構想をメンバーと共有し、構想から連想される言葉（動詞・形容詞等）を集めていく。メンバー全員で集めた言葉を掛け合わせながら、1文のフレーズを作成した。

ワークショップ②：歌詞の全体イメージと流れを作る

校歌全体を起承転結に分け、高校生活のどのような部分が校歌の起承転結と合致するかについて考える

①で作成したフレーズを校歌の起承転結に沿って配置する。

ワークショップ③：②までを踏まえ、フレーズ同士を文脈として配置するなどして、歌詞の素案を作る

議論：フレーズの検討

ワークショップを通して作成した歌詞の素案のブラッシュアップ
表現したい内容の再確認 など

プロジェクトを終えて（教職員所感）

校歌の歌詞を生徒と教職員がともに考えることを通して、開建高校の在りたい姿を共有し、後世に残していく大切な要素を確認することができたと感じている。また、生徒たちは校歌という社会的に大きな意味を持つ成果物を残すプロジェクトに参加し、達成感を感じているようだった。今回の活動がさらなる他の活動への意欲につながることを期待している。

完成した校歌については、開校式での正式披露に向け塔南高校の在校生（後輩）が歌唱の練習を行っている。歌詞の作成に携わった生徒は、「自分たちが作ったものが今後も残り、歌い継がれていくという点に大きな魅力を感じている」と語っており、「生徒が関わった活動の成果がどのようにその後扱われていくのか」という点が、その活動が「生徒が夢中になる」活動となるための要素として、大きな役割を果たしていると思われる。

令和4年度防災ボランティアリーダーの活動

龍谷大学政策学部石原ゼミとの交流（HUG）2022年6月17日 7月8日 20名

今年度は龍谷大学と本校で計2回実施。

本校のこれまでの取り組み紹介と、ゼミ生の授業を受講した。

災害時に留意すべきことを「避難」「ペット」などいくつかのジャンルに分け、1グループの生徒ひとりずつにそれぞれ1ジャンルの簡単な講義をしたのちにHUG(避難所運営ゲーム)の実施。それぞれ違う視点から避難所についてイメージすることができた。

理想的な避難所についてのグループワーク。避難所に求めるものが人により異なり、避難所の運営が難しいことを実感することができた。

京大防災研宇治川オープンラボラトリ研修 2022年8月19日 20名

昨年度も実施。災害体験型学習

- ▶ 実際に豪雨が起きたときの水の流れの確認をする雨水流出体験
- ▶ 地下に水が流れ込んだ階段を登る水害及び避難体験
- ▶ 浸水したドアの開閉による浸水体験

実際に被災した経験が少ない生徒たちにとっては、実際に水害に関する模擬体験することで、水害の怖さを今までとは違う形で実感することができ、より一層防災、減災を「我が事」としてとらえる事ができるようになった。

水害避難訓練の実施 21名 2022年7月20日

本校は京都市南区に位置しており、近くには一級河川の桂川などがある。

洪水が起きた際、本校周辺は浸水後3mまで水位が上昇する可能性がある。

校舎の2階以下にいる生徒及び教員を全員校舎の3階以上に場所を決めて移動させる、「垂直避難訓練」を防災ボランティアリーダーの生徒たちが主体となって実施。

当日の放送原稿、生徒の避難導線も含めて生徒達が一から作成した。

初めての試みであったが、導線なども含めておおむね成功。

実際の被災に備えて、今後も定期的にブラッシュアップしつつ行っていきたい。

文化祭での防災イベント（防災クイズ、放水体験）21名 2022年9月8日 9日

2022年9月の文化祭において、京都市南消防署の方、京都市南区役所

の方との連携・協力のもと何かイベントができないかと計画した。

- ▶ 防災〇×クイズ

▶ 消防車放水体験

防災〇×クイズを実施し、勝ち残った生徒達は消防車放水体験に参加できる、という流れ。南区役所の方には参加賞として非常食を提供いただいた。

イベント参加者には南消防署、南区役所からの防災にかかわるお知らせ、伝えて欲しいことなども防災ボランティアリーダーが口頭で説明した上で配布することができ、三者にとって有益となるイベントとなった。

防災登山（醍醐寺～横峯峠～高塚山） 16名 2022年10月16日

▶ 登山の目的

インフラが断絶された場所で、登山用品、防災用品などを使ってみることで、実際の被災をイメージし、防災・減災を「我が事」としてとらえていくことを体感すること。

▶ アクティビティ

- 土石流災害に対して対策したのり面の見学
- 山頂付近での簡単な炊事、シェルターの作成などのワークショップ

実際の被災のイメージはより深まった。

日帰りではあったが、何が起こってもある程度対応できるよう準備する登山の性質が、防災の精神に近いものであることを実感できた。

本校体育館および祥栄小学校の防災設備点検、設営訓練 12名

2022年 9月26日(本校)11月13日(祥栄小学校)

訓練内容・・・マンホールトイレの設営

発電機や非常用ライト等の避難用具の確認

本校体育館の非常設備点検、設営も別日に行った。YouTube で避難所の設営方法を説明する、という試みをした。

2次元バーコードで被災時、避難所から携帯が繋がれば確認することができる。祥栄小学校でも同様に実施した。

人と防災未来センター研修、フィールドワーク 15名 2022年12月17日

阪神・淡路大震災当時の被害や経験、教訓を今に伝える防災学習施設

被災された語り部の話を伺うだけでなく、龍谷大学石原先生の講義を現場で聴き、より一層理解が深まった。震災遺構、慰霊碑の見学などのフィールドワークをゼミ生と行うことができ、知識だけでなく経験として震災を理解することができた。

淡路島防災ジュニアリーダー育成合宿 2名 2022年1月12日～15日

教員1名が引率し、国立淡路青少年交流の家に宿泊し、3泊4日で他校と防災の取組を交流しながら非常に中身の濃い学びとなった。本人達の学びだけで終わらせず、アクションプランを策定し、学校にしっかり還元していきたい。

ジュニアリーダー育成合宿還元イベント 18名

2年生の活動の締めとして、壁新聞を作成し、発表する、という企画も行った。ジュニアリーダー育成合宿に行った2名は「防災バックの中身を考えよう」というグループワークを自ら考え、実施した。最後に人と防災未来センターが作成した災害時の持ち物チェックリストを渡し、家に帰った際に自宅の避難用品の中身について考えることにつながる、非常に有意義なグループワークであった。

今後の課題

学校の中でもっと認知され、防災意識が広がるような取組を今後行っていきたい。具体的には、(何が起こるか教員もわからない) 避難訓練の実施などである。地域の方と様々な形で結びつき、活動することはできている。今後は同じ年代の高校生や中学生に出前授業を行う、なども企画していきたい。